

めか、此二ツの外には出でぬ、
されば此上は』

と言つて言葉を切つた宗吾は改め
て部屋の中を見廻し一段と聲を低
めた、彼れの眉の間に悽壯たる精
氣が流る、

『此の策はどうから考へて居たの
だが皆さんの難澁にもなること
だと思ふて遺憾して居ましたが
今夜と云ふ今夜は、宗吾は覺悟
を定めました』

彼れが眼からは仰ぎ見ること出
來ない正義の光輝を放つ、

數秒の幽嚴な沈黙の後、千葉町名
主忠藏は頭を上げ決然と言つ
た。

『宗吾さん、今の話はチト水臭い、
私等今度の騒動には、どうから
命は投げ出して居る、今の話を
聞くにつけ、それより手段もな
さそうだ、爲らう事なら此俺が
宗吾さんに代つて江戸へ出たい
のじやが、腹さ云ひ、辯舌と云
ひ、連も餘人じや勤まる役じや
ねえ、御氣の毒とは此方から云
ふこと、今夜首尾よく通れ出で

『其の手段は今夜五満時、番人の
寢靜まるを待ち、此手錠を扭じ
切り、裏屋根傳いに通れ出で、
脚に任せて江戸へ登り、殿様か
それ叶はずば、老中でも、公方
様へでも、此宗吾が命を的に恕
籠訴を試みる存念』
宗吾の顔は次代に蒼白く、殺氣を
帯びる

『宗吾決死の願ひ、幸ひ願意聞届
けらるれば此身も過分じやが、
それにしては差當り、此方さん
達へも飛沫がかる事、どうせ

ても、明日は宿場々々に見張り
もつかう、それ馳け抜けて江戸
へまで、悪路を續けるも、並大
抵ではない、又願意が届いたと
ころで直訴の罪は遠島か、打首
か、それに比べたら俺達の、後

の苦勞は何でもねえ、誓へ鎗の
熱湯、石積の拷問で、骨が砂利
になつたとして、餘人は知らず此
忠藏は、美事耐へて見せる』
忠藏の吐く息は炎の如く、毛蟲の
様な肩がピリツと動く。
『俺とても其通り、名主様々々と

明日、宗吾逃走と知るならば、
跡に残つた此方さん方も無事で
は差し置かれまい、やがて又駕
籠訴の上、願意聞き届けられた
にせよ、同類相逆せし罪は免れ
る事は出来まい、輕くて家財没
收、重ければ、處拂ひの悲運は
眼に見へて居る、それが氣の毒
さに、宗吾數度の決心もつきか
ねた』

沈痛なる一語は一語に、部屋の中
氣は鉛の様に重くなつた、聞く五
人の者は吐く息すら苦しい。

日頃小前の者に奉られて來た
のは、今日あるがため、正義の
道に死ぬ事は俺も覺悟じや』

『人間五十年、もう之れ十五年も
生き延びた、宗吾さんの後の事は
心配なさらずに』
『死なば諸共と誓つた我々、宗吾
さんの一人やるのが、俺は可愛相
でならぬ』
『と云つても人数が増せば人目も
増す、此上は後は五人で引き受
けて、宗吾さんの江戸へ送るが
上分別』